

2021年3月吉日

平素は大変お世話になっております。

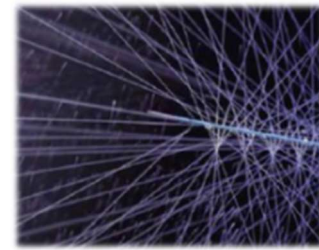
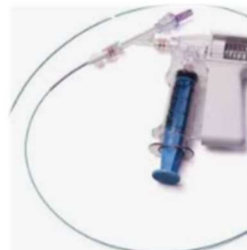
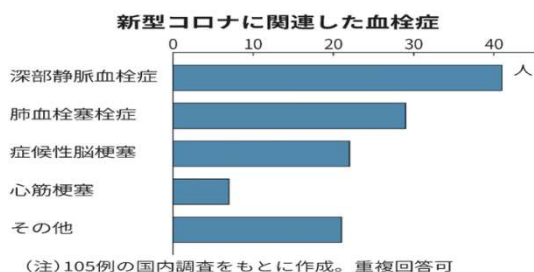
第三弾より名前を「Merit Medical Intervention Magazine」から「MERIT CAFE」に改名し、代理店様のビジネス、また医療現場で働かれている医療従事者様にとってお役に立てる情報を配信させていただきます。是非ご活用ください。

## 今回は新型コロナウイルスによる深部静脈血栓症に関する情報とカテーテル血栓溶解療法 「血栓溶解カテーテルシステム Fountain®」のご提案です

下記、日本経済新聞（有料会員限定）記事を抜粋

国内では、厚生労働省の研究班が日本血栓止血学会や日本動脈硬化学会と、2020年8月末までに全国100以上の医療機関に入院した約6千人を調べた。発症したのは1.85%の105人。軽症や中等症では0.59%だったが、人工呼吸器やECMOを必要とする重症者では13.2%に達した。調査した金沢大学の森下英理子教授は「海外よりは低いが他のウイルスに比べると高頻度だ」と話す。詳しくみると、足などの血管に血栓ができる深部静脈血栓症が41人。心臓から肺に血液を送る血管が詰まる肺血栓塞栓症が29人と多い。肺血栓塞栓症は診断に必要な検査をきちんと実施できず、見落とした可能性もあるという。なりやすい患者を探る研究も進む。桑名市総合医療センターの山田典一副院長や横浜南共済病院の孟真・院長補佐らが血栓症になった患者のデータを調べると、体格指数（BMI）が高い傾向があり、入院中に人工呼吸器が必要になるなど重症化しやすかった。退院後に診断された人もおり、急性期を脱した後も注意が必要だという。予防や治療には、血液の凝固因子の働きを妨げる薬などを使うのが一般的だ。ただ出血が起こり、投与を中止した事例が報告されている。

出展：日本経済新聞 2021年2月21日



「血栓溶解カテーテルシステム Fountain」は深部静脈血栓症、ステント内血栓症、動脈硬化の強い急性下肢虚血、シャントトラブル時のカテーテル血栓溶解療法（CDT：Catheter directed thrombolysis）として幅広くご利用いただけます。

厚生労働省の研究班が調べた結果（日経新聞記事参照）によると新型コロナウイルスによる血栓症（深部静脈血栓症）が増加している傾向がデータとして見受けられます。また外出自粛等によるストレスや日常運動レベル低下により末梢動脈疾患（PAD）が増悪し閉塞性動脈硬化症（ASO）等のリスクも増加している可能性が高いと予想されます。深部静脈血栓症や動脈硬化の強い急性下肢虚血では緊急性の高い治療になる事から、この機会に「血栓溶解カテーテルシステム Fountain」ご提案いただき緊急性の高い血栓症の治療にお役立ていただければ幸いです。

「血栓溶解カテーテルシステム Fountain®」 [https://www.merit.co.jp/product\\_item/fountain/](https://www.merit.co.jp/product_item/fountain/)

「血栓溶解カテーテルシステム Fountain®」セットアップ手順

販売名：メリットインフュージョンカテーテル



メリットメディカル・ジャパン株式会社 医療機器承認番号：21100BZY00502000  
〒163-0531 東京都新宿区西新宿 1-26-2 新宿野村ビル 31F  
TEL. 03-5989-0100 FAX.03-5909-5402 www.merit.co.jp